

【天生の森と人のプロジェクト】



- 事業実施年度 令和2～6年度
- 総事業費（見込み） 23,160千円
- 令和2年度事業費 8,080千円
- 寄附募集額 7,100千円
- 「SDGs」関連するゴール



■この事業のポイント

- 天生の森（天生県立自然公園）は、高山植物群、高層湿原、ブナ原生林など雄大な自然を体感でき、四季折々の花々や美しい紅葉に出会えるふるさとの宝物です。年間数千人が訪れる景観スポットでもあります。
- この森の美しさは、本来の自然ばかりではなく、地域のパトロール員の方々の深い経験と知恵が創り出した、生態学的手法に順応した保全管理のたまものです。
- 類まれな保全技術の継承・普及を図るとともに、誰もが安心して散策できる環境の整備に取り組むことで、持続可能な未来へとつながる、森と人との共生プロジェクトを推進します。

■目的・概要

「天生の森」は標高1,744mの靱糠山をはじめ樹齢400年のブナ林、水芭蕉等の湿原など多彩なスポットがある自然豊かな1,638haの県立自然公園で、個人客やツアー客など、年間数千人が訪れます。同公園は、片道40分から3時間まで、自身の体力や経験と相談しながらコースを選択し、無理なく大自然を満喫することができます。

令和元年度は、同公園の生態系に配慮した遊歩道等の環境デザイン計画を策定し、森の保存技術の継承と人員対策、陸地化が進む湿原の保全対策、入山者の安全対策等課題を整理しました。

令和2年度は、遊歩道維持補修技術を継承するためのワークショップを2回開催するとともに、公園内に設置している標識の再整備をに向けたサインシステム計画の策定を行い、生態系に配慮した散策しやすい「天生の森」を整備し、更なる活用を図ります。

■事業概要

① 遊歩道の保全のための近自然工法の継承支援（651千円）

近自然工法による遊歩道の技術を継承するため、専門講師の指導の下で技術マニュアルを作成するとともに、ワークショップを開催し、近自然工法技術を身につける後継者を育成します。

② サインシステム計画の策定（3,300千円）

公園内に設置してある標識の問題点を洗い出し、森の景観に沿った見やすく現在地がわかりやすい標識の再整備を行うための計画を策定します。

③ 緊急避難道の補修（800千円）

緊急避難道に木柵を設置するなど、傷病者等を車両等で安全に搬送できるよう、補修を行います。

④ 天生の森の保全事業（3,329千円）

パトロールや料金収受業務、獣害対策、散策会の実施を継続するほか、新たに無線機の配備を行います。

■ご寄附いただいた企業様へのご対応

○天生の森の散策会等イベントのご案内をさせていただきます。

○飛騨市の広報誌やホームページ、SNS等でご寄附いただいた旨、広報をいたします。

■お問い合わせ先

【事業内容に関すること】 飛騨市役所 河合振興事務所 地域振興課 電話0577-65-2221

【ご寄附に関すること】 飛騨市役所 企画部 総合政策課 電話0577-73-6558